

(様式第 10)

香大医医第 0035 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人香川大学長  
長尾 省吾

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学長 長尾 省吾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話(087)898-5111
-----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
1 循環器内科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 心臓血管外科	2 消化器外科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
<b>歯科の診療体制</b> 本院では、一般の歯科医院では対応困難な様々な顎口腔領域に生じる様々な疾患の診断と治療を行っており、適切な歯科の診療体制が整っている。現在常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師名が従事し、平成26年度においては1日あたり平均入院患者数5.8人、外来患者数44.7人について歯科診療を行っている。						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 小児外科	2 形成外科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	床	床	床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	219人	176人	379.8人	看護補助者	61人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	10人	14.5人	理学療法士	8人	臨床検査技師	37人
薬 剤 師	36人	3人	39.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	38人	1人	39.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	546人	33人	573.2人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	23人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員	66人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	30人	その他の職員	19人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	18人	眼科専門医	11人
外科専門医	26人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	5人
		合 計	166人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	439.2人	5.8人	445.0人
1日当たり平均外来患者数	886.8人	44.6人	931.4人
1日当たり平均調剤数			565.3剤
必要医師数			100人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			15人
必要(准)看護師数			258人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	972.3m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	40床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 253.7m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 0台		病床数 17床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 59.5m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	109.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)			
細菌検査室	85.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・微生物分類同定分析装置 MALDIバイオタイパー (ベックマン・コールター) ・MIC画像処理診断システム (栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)			
病理検査室	237.6m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・密閉式自動固定包埋装置 ティッシュテックVIP6 (サクラファインテックジャパン VIP6-J0) ・術中迅速凍結切片作成装置 クリオスタット (サクラファインテックジャパン Polar D) ・自動免疫染色装置 Ventana Benchmark XT (ロシュ・ダイアグノスティックス)			
病理解剖室	272.9m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)			
研究室	31.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) なし			
講義室	481.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	407人
図書室	1,672.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	137,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率		74.1%	逆紹介率
			49.2%
算出根拠	A：紹介患者の数		9,294人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,754人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		876人
	D：初診の患者の数		13,716人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性血球減少症に対するリツキシマブ療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 自己免疫性血球減少症の難治例の予後改善を目的とする。自己免疫性血球減少症は生命予後に大きく関わること、ステロイド剤が減量困難なことにより引き起こされる感染症などの合併症もまた長期予後を規定するものであることから、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	術後腸管に対するバルン内視鏡下 ERCP	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 術後腸管に対するERCPは、これまで困難であったがバルン内視鏡によって容易になってきた。しかし、バルン内視鏡を保有する施設は限られており、現状ではハイボリュームセンターのみで行われている。			
医療技術名	超音波内視鏡下穿刺吸引検法	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下穿刺吸引検法は、保険収載されて以降普及してきたが、十分な経験を必要とする検査である。			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下瘻孔形成術は、経消化管的に胆道にドレナージュ膵膿瘍ドレナージュを行う手技で、いまだ専用デバイスもなく手技も確立しているとは言えず、全国的にも限られた施設のみで施行されている。			
医療技術名	多系統萎縮症における夜間呼吸障害の評価と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ポリソムノグラフィーによる夜間呼吸障害の評価とそれに基づく非侵襲的人口呼吸装置の導入を行い、疾患の予後改善に寄与する。			
医療技術名	起立負荷後のAVP反応を用いた自律神経障害の評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 起立負荷時のAVPの反応性を基に、中枢性自律神経障害の鑑別を行っている。			
医療技術名	免疫性神経疾患におけるガンマグロブリン静注療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 重症筋無力症および視神経脊髄炎の再発予防を目的にガンマグロブリン静注療法を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の色素法とRI法併用によるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 色素法とRI法を併用してセンチネルリンパ節をみつけて切除し、組織学的に転移の有無を検討する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	皮膚悪性腫瘍の集学的治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍の外科的手術、化学療法、放射線治療、緩和ケア等による総合的な一連の治療。			
医療技術名	悪性黒色腫の5S-CD値によるフォロー	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫の腫瘍マーカーである5-S-CD値を定期的に測定し、再発の早期発見など患者の経過フォローアップに役立つ。			
医療技術名	重症乾癬患者に対する生物学的製剤(抗TNF- $\alpha$ 抗体など)による治療	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 重症乾癬患者に対し、生物学製剤(抗TNF- $\alpha$ 抗体など)を用いて全身的治療を行う。			
医療技術名	新しい光源による新生児高ビリルビン血症に対する光療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 新生児高ビリルビン血症に対して、ビリルビンを体外排出型に構造変化させる光療法を新しいLED光源を用いて、より効果的に行う。			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の脳循環、代謝を評価。			
医療技術名	小児急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 小児で最も多い白血病に対し層別化を行い、治癒率の向上と晩期合併症の低下を目標とする。			
医療技術名	小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病(Ph+ALL)に対するチロシンキナーゼ阻害剤併用化学療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児難治性白血病である本疾患に対し分子標的薬と多剤併用化学療法の併用により治癒率を向上させる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いた直腸癌手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の持つ鉗子の可動性、3D+拡大視効果、手ぶれ防止機能などによる利点を活かし、より精密な手術を行うことにより、機能障害を有意に減らすことが可能である。			
医療技術名	膵癌に対する短期術前化学放射線療法を組み合わせた外科治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 短期間術前化学放射線療法(平成21年香川大学倫理委員会承認)を施行することにより完全切除率が高くなり、再発の可能性が低下する。			
医療技術名	画像ナビゲーションシステムを用いた肝臓外科手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 画像ナビゲーションシステム(ビンセント)を用いて術前に解剖や肝容量などを詳細に検討することより安全な肝臓外科手術が可能となった。			
医療技術名	胃GISTに対するLECS手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 腹腔鏡・内視鏡合同手術(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)により、必要最小限の侵襲で胃GIST切除を可能とする新しい手術方法。			
医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肺癌患者に対して遺伝子解析に基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	局所進行肺癌に対する集学的治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に鼠径ヘルニア根治術を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下虫垂切除術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を利用した虫垂切除。			
医療技術名	腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 二期的に腹腔内精巣を陰のうに固定する。			
医療技術名	胎便性腹膜炎手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 多期的胎便性腹膜炎の根治術。			
医療技術名	腹腔鏡下噴門形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胃食道逆流症に対して腹腔鏡下に噴門形成する。			
医療技術名	小児臍頭十二指腸切除	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 消化器外科との合同手術。			
医療技術名	小児卵巢腫瘍切除(腹腔鏡下)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 婦人科との合同手術。			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植。			
医療技術名	遊離皮弁術、遊離複合組織移植術	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	遠位血行再建術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 膝以下の重症下肢虚血に対するバイパス手術。			
医療技術名	多血小板血漿療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性潰瘍に対する多血小板血漿を用いた治療。			
医療技術名	漏斗胸手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 3Dシミュレーションにより胸郭変形を予測した漏斗胸手術。			
医療技術名	リンパ管静脈吻合	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 スーパーマイクロサージャリー技術を用いたリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療。			
医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、複雑な腎腫瘍に対し、腎を全摘することなく部分切除する。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、膀胱癌に対し膀胱全摘除術を行う。さらに、体腔内で代用膀胱作製などの尿路変向術も行う。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍患者に対する抗悪性腫瘍剤耐性遺伝子を検索することにより、個々の患者に効果のあり、さらに副作用の軽減を目的とした治療である。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法。			

(注)1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注)2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 手術において、術中ナビゲーションを用いることで、摘出部位や残存腫瘍が把握でき、さらに電気刺激部位の確認による機能温存を考慮した治療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	98人
当該医療技術の概要 脳神経外科手術において、重要な脳神経が損傷されないように、神経を電気刺激してその反応を確認しながら手術を行うことで、より安全確実な手術ができる。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 脳腫瘍手術において、周囲脳との境界が不明瞭な腫瘍では摘出範囲を決定するのが困難であるが、術前に患者にアミノレブリン酸を投与し、術中に偏光顕微鏡を用いることで腫瘍が蛍光認識できるため、確実に腫瘍を摘出することができる。			
医療技術名	ICGを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中に血行動態を把握するのは通常困難であるが、ICGを静脈投与して偏光顕微鏡で観察することで血管が蛍光認識できるため、安全確実に手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形は治療が困難な疾患であるが、液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動静脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			
医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期における治療はrt-PA治療であるが、これに反応しない症例などに対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等の手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に神経内視鏡を用いることにより、良好な術野で侵襲の少ない手術が可能である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	経口腔的内視鏡下咽喉頭腫瘍切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 特殊な開口器、咽頭鏡を用いて内視鏡下に腫瘍を切除する。			
医療技術名	内視鏡補助下頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外切開を加えることなく、経口腔的に側頭下窩、翼突窩の腫瘍を摘出する。			
医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	107人
当該医療技術の概要 肝癌に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術。			
医療技術名	高速ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	1,947人
当該医療技術の概要 高速ヘリカルCTによる3次元画像。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 多分割絞リ(マルチリーフコリメータ)などを用いて、空間的又は時間的な放射線強度の調整を同一部位に対する複数方向からの照射について行うことで、三次元での線量分布を最適なものとする照射療法。3方向以上の照射角度から各門につき3種以上の線束強度変化をもつビームによる治療計画を逆方向治療計画法(インバースプラン)にて立案したもの。			
医療技術名	画像誘導放射線治療(IGRT)	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 毎回の照射時に治療計画時と照射時の照射中心位置の三次元的な空間的再現性が5ミリメートル以内であることを照射室内で画像的に確認・記録して照射する治療。			
医療技術名	密封小線源治療 組織内照射 前立腺癌に対する永久挿入療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 前立腺組織内にヨウ素 125 粒子を挿入する療法。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	免疫抗体によるHER2染色	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 転移性乳癌や乳癌術後及び進行・再発胃癌の補助化学療法。			
医療技術名	EBER in situ hybridization 検査	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			
医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	77人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	口腔がんにおける再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 口腔がん診療において欠損した組織を補う再建術を行うことで術後の機能障害をできるだけ軽減する。			
医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 歯を欠損した場合義歯やブリッジでの補強が必要であったが、インプラントを行うことにより天然歯と同様に咬合することが可能になる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下の唾石摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 大唾液腺に生じた唾石は、皮膚切開し唾液腺摘出が必要となったり口腔内を大きく切開し唾石を摘出することが必要であるが内視鏡を用いることで低侵襲となり小さな切除で唾石を摘出することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 根光病巣は外科的に摘出され歯根端切除、逆根管充填術が行われるが臼歯部では視野の問題で対応がされず、摘出せざるを得なかった。しかし内視鏡を使用することで臼歯部についても保存し、以後の手術が可能となる。			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術。			
医療技術名	体温管理療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 重症脳障害に対する体温管理療法。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	42人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	90人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	86人	・原発性胆汁性肝硬変	77人
・全身性エリテマトーデス	110人	・重症急性膵炎	11人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	22人
・再生不良性貧血	13人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	52人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	1人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	138人	・網膜色素変性症	17人
・特発性血小板減少性紫斑病	20人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	33人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	70人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	19人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	14人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	32人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	34人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	18人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	159人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	29人
・後縦靭帯骨化症	40人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	30人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	29人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	41人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	103人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・地域歯科診療支援病院入院加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・救命救急入院料1
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料4
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料2
・救急医療管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算2	・入院時食事療養/生活療養(I)
・急性期看護補助体制加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料3	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・認知症専門診断管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料	・無菌製剤処理料
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・造血管腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・植込型心電図検査	・認知療法・認知行動療法2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的動脈遮断術
・磁気による膀胱等刺激法	・ダメージコントロール手術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・CAD/CAM冠	・生体部分肝移植術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・経皮的冠動脈形成術	・輸血管理料 I
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・歯周組織再生誘導手術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・麻酔管理料(I)





(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
再生医療を応用した乳幼児肺移植技術の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内分泌外科	2,800,000	(補委) 文部科学省
PSA監視療法中の前立腺癌患者の病勢増悪予測指標としてのp2PSAの有用性の検討	寛 善行	泌尿器科学	2,700,000	(補委) 文部科学省
薬剤耐性遺伝子に関するmicroRNAを用いた悪性脳腫瘍に対する分子治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	4,200,000	(補委) 文部科学省
軽度認知障害の睡眠構造とアルツハイマー病移行との相関について	新野 秀人	地域連携精神医学	100,000	(補委) 文部科学省
胃瘻からの半固形栄養材注入法の機序と臨床的意義の検討	合田 文則	総合診療科	200,000	(補委) 文部科学省
クリニカルクラークシップの診療科横断的リアルタイム評価の方法と意義に関する研究	岡田 宏基	医学教育学	700,000	(補委) 文部科学省
肥満における動脈周囲脂肪組織の挙動と粥状硬化巣の病勢との関連に関する研究	大森 浩二	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,200,000	(補委) 文部科学省
ヒトIPS細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の検討	人見 浩史	薬理学	1,000,000	(補委) 文部科学省
近赤外線分光法および電流知覚閾値を用いた新しいパーキンソン病診断法の開発	出口 一志	消化器・神経内科学	1,400,000	(補委) 文部科学省
膵β細胞における脂肪毒性解除にむけた治療戦略	村尾 孝児	先端医療・臨床検査医学	800,000	(補委) 文部科学省
ステロイドによる表皮細胞と血管内皮細胞におけるカベオリン1発現調節	窪田 泰夫	皮膚科学	1,100,000	(補委) 文部科学省
抗認知症薬の薬効評価における全般臨床評価法についての研究	中村 祐	精神神経医学	1,000,000	(補委) 文部科学省
高精度・低副作用な放射線治療計画を可能とする経時的な線量分布参照システムの開発	上村 幸司	医療情報部	1,200,000	(補委) 文部科学省
気管細胞外マトリックスと自己骨髄幹細胞を用いた異種移植気道グラフトの開発と応用	呉 哲彦	呼吸器・乳腺内分泌外科	1,800,000	(補委) 文部科学省
膵臓癌におけるピク3遺伝子の臨床的意義に関する検討	大島 稔	消化器外科	300,000	(補委) 文部科学省
細胞膜マイクロドメインを用いた麻酔薬作用機序の解明	小野 純一郎	麻酔学	900,000	(補委) 文部科学省
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌に対する低侵襲な治療法の開発にむけて	星川 広史	耳鼻咽喉科学	1,200,000	(補委) 文部科学省
網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の細胞レベルでの病態・構造・機能解析システムの確立	辻川 明孝	眼科	1,200,000	(補委) 文部科学省
超音波による新しい多臓器包括的老化指標の開発と生活習慣病の総合的管理の効果解析	舩形 尚	総合診療科	700,000	(補委) 文部科学省
高齢者における脳磁気刺激法を用いた効果的な運動・認知機能訓練法の開発	峠 哲男	健康科学	400,000	(補委) 文部科学省
肝細胞がんに対するガレクチン9の抗腫瘍効果の基礎的研究	正木 勉	消化器・神経内科学	1,100,000	(補委) 文部科学省
非小細胞肺癌におけるサイトケラチン崩壊による浸潤亢進機序の解明と抗浸潤療法の開発	坂東 修二	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	1,300,000	(補委) 文部科学省
食餌性肥満のリバウンド期における脂肪組織の挙動に対する薬物的介入の効果の検討	河野 雅和	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,100,000	(補委) 文部科学省
新生仔豚仮死モデルを使用した新生児低酸素性虚血性脳症の治療戦略の検討	安田 真之	小児科	1,500,000	(補委) 文部科学省

新生児期における腸管の低酸素性虚血障害の病態生理と治療に関する研究	久保 裕之	小児外科学	1,300,000	補委	文部科学省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温と水素吸入ガス併用療法の効果に関する研究	日下 隆	小児科学	1,400,000	補委	文部科学省
核酸誘導体を用いた脳腫瘍のPET分子イメージング	山本 由佳	放射線診断科	1,100,000	補委	文部科学省
隣神経内分泌腫瘍における主要遺伝子の臨床的意義に関する検討	岡野 圭一	消化器外科	1,600,000	補委	文部科学省
実用化に向け進行期肺癌におけるバイオマーカーに基づく個別化治療のガイドライン作製	劉 大革	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,200,000	補委	文部科学省
4次元超音波を用いた胎児中枢神経系の発達評価法の確立	秦 利之	周産期学婦人科学	1,100,000	補委	文部科学省
PRPと徐放化FGF-2を併用した体内埋入型チャンバーを用いた血管柄付き組織再生	田中 嘉雄	形成外科学	1,500,000	補委	文部科学省
脳内酸化ストレス評価に基づく重症脳障害患者の抗酸化治療の有効性に関する研究	黒田 泰弘	救急災害医学	800,000	補委	文部科学省
新規希少糖ガムの作製とその口腔内常在性菌に対する作用の研究	小川 尊明	歯科口腔外科学	1,100,000	補委	文部科学省
交感神経と局所RAASをターゲットとした脳心腎・糖代謝連関に対する治療法の開発	西山 成	薬理学	1,500,000	補委	文部科学省
効果的な患者向け医薬品情報提供文書の必須因子の解析	池田 正行	医療情報部	1,300,000	補委	文部科学省
膠原病症例の治療効果判定におけるF-18 FDG PET検査の有用性の検討	川瀬 良郎	放射線医学	1,500,000	補委	文部科学省
核酸誘導体を用いた消化器癌のPET分子イメージング研究	小野 優子	放射線診断科	1,500,000	補委	文部科学省
強度変調放射線治療における治療計画法の標準化と均てん化に関する実験的・臨床的研究	柴田 徹	放射線治療科	1,000,000	補委	文部科学省
希少糖D-alloseを駆使した膵島移植成績向上の研究	鈴木 康之	消化器外科学	1,200,000	補委	文部科学省
脳外傷におけるmiRNAのバイオマーカーとしての有用性の検討	畠山 哲宗	脳神経外科	900,000	補委	文部科学省
重症脳外傷患者における脳内アミロイドβ蛋白沈着と高次脳機能障害の関連	河井 信行	脳神経外科学	1,200,000	補委	文部科学省
非細菌性慢性炎症を伴う前立腺肥大症におけるサイトカイン・ケモカインの包括的解析	杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	2,000,000	補委	文部科学省
内リンパ嚢・血管条における内リンパ液制御機構の研究	宮下 武憲	耳鼻咽喉科学	1,500,000	補委	文部科学省
正常眼圧緑内障の病態解明と神経保護治療薬の開発	廣岡 一行	眼科	1,400,000	補委	文部科学省
ポータブルEPR放射線線ばく線量測定装置の生体への応用	三宅 実	歯科口腔外科学	2,100,000	補委	文部科学省
口腔外科疾患に対する骨シンチグラフィ定量評価システムの開発と臨床応用	大林 由美子	歯・顎・口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省
呼吸運動のシミュレーション評価による、胸郭の欠損パターンに応じた至適再建法の解明	永竿 智久	形成外科	1,100,000	補委	文部科学省
媒介蚊体内でのマラリア原虫の分化・発育誘導に関与するハマダラカ特異的因子の同定	新井 明治	国際医動物学	900,000	補委	文部科学省
高圧気相による長期肺保存法の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,200,000	補委	文部科学省
胃腸患者の誤嚥性肺炎予防のための超音波下胃蠕動運動計測手段の確立	筒井 邦彦	健康科学	500,000	補委	文部科学省
香川県がん在宅死亡率倍増計画	犬飼 道雄	総合診療科	1,200,000	補委	文部科学省
皮膚バリア機構破綻アトピー性皮膚炎モデルマウスの酸化ストレス状態と治療	中井 浩三	皮膚科学	500,000	補委	文部科学省



非アルコール性脂肪肝におけるマイクロRNAを標的分子とした診断・治療法の開発	谷 丈二	消化器・神経内科学	300,000	補委	文部科学省
癌関連線維芽細胞(CAF)を標的とした胸膜中皮腫の新たな治療法の開発	金地 伸拓	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	1,000,000	補委	文部科学省
生体腎移植における尿管老化の検出を目的としたバイオマーカー探索研究	祖父江 理	循環器・腎臓・脳卒中内科	1,000,000	補委	文部科学省
脂肪由来幹細胞を用いた高濃度酸素環境下での人工皮弁作成	濱本 有祐	形成外科・美容外科	1,000,000	補委	文部科学省
メトフォルミンの抗腫瘍効果の基礎的研究	小林 三善	消化器・神経内科学	600,000	補委	文部科学省
レナリドミドと細胞障害性CSF1R抗体を併用した白血病幹細胞根絶療法の開発	松岡 亮仁	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	1,100,000	補委	文部科学省
早産児の乳児期早期における視覚認知機能と発達の予後との関連について	小西 行彦	小児科	500,000	補委	文部科学省
低酸素虚血負荷後の脳循環と脳波測定による脳障害の重症度予測に関する基礎的研究	中村 信嗣	小児科学	200,000	補委	文部科学省
肝発癌進展過程におけるマイクロRNAと血管新生分子を標的とした診断・治療法の開発	野村 貴子	消化器・神経内科学	1,300,000	補委	文部科学省
未熟児貧血における脳循環に基づく輸血基準の作成を目指して	小谷野 耕佑	小児科	1,200,000	補委	文部科学省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する新規追加治療の研究	神内 済	小児科	600,000	補委	文部科学省
内リンパ囊の内リンパ静水圧調節機能についての検討	稲本 隆平	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100,000	補委	文部科学省
AKIに対する虚血プレコンディショニングの有用性と機序の解明	西岡 聡	血液浄化療法室	1,200,000	補委	文部科学省
術後の運動制限下における理学療法の質的トレーニングの検討	森田 伸	リハビリテーション部	400,000	補委	文部科学省
患者由来iPS細胞を用いた加齢黄斑変性の病態解明・治療法の開発研究	辻川 明孝	眼科学	9,465,000	補委	厚生労働省
抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究	一二三 亨	救命救急センター	25,000,000	補委	厚生労働省

計 68

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Imachi H	内分泌代謝内科	Decreased expression of platelet human scavenger receptor class B type I in patients with type 2 diabetes mellitus.	J Diabetes Investig. 2014 May 4;5(3):345-6
2	Imataki O	血液・免疫・呼吸器内科	Chronic myelomonocytic leukemia presenting with polyserositis due to an immune-mediated monocyte activation.	Clin Case Rep. 2014 Apr;2(2):42-4.
3	Imataki O	血液・免疫・呼吸器内科	Hemophagocytic syndrome with febrile neutropenia after chemotherapy.	Intern Med. 2014;53(14):1585-6.
4	Kanaji N	血液・免疫・呼吸器内科	Paraneoplastic syndromes associated with lung cancer.	World J Clin Oncol. 2014 Aug 10;5(3):197-223.
5	Kameda T	血液・免疫・呼吸器内科	Association of higher methotrexate dose with lymphoproliferative disease onset in rheumatoid arthritis patients.	Arthritis Care Res (Hoboken). 2014 Sep;66(9):1302-9.
6	Kanaji N	血液・免疫・呼吸器内科	Fibroblasts that resist cigarette smoke-induced senescence acquire profibrotic phenotypes.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2014 Sep 1;307(5):L364-73.
7	Imataki O	血液・免疫・呼吸器内科	Delayed flare reaction of draining vein due to subcutaneous bortezomib more likely to occur at the inner thigh.	Int J Hematol. 2015 Jan;101(1):99-101.
8	Kanaji N	血液・免疫・呼吸器内科	Higher susceptibility of NOD/LtSz-scid Il2rg (-/-) NSG mice to xenotransplanted lung cancer cell lines.	Cancer Manag Res. 2014 Oct 21;6:431-6.
9	Imataki O	血液・免疫・呼吸器内科	Bronchiolitis and bacteraemia caused by Burkholderia gladioli in a non-lung transplantation patient.	New Microbes New Infect. 2014 Nov;2(6):175-6.
10	Yokokura S	血液・免疫・呼吸器内科	Calmodulin antagonists induce cell cycle arrest and apoptosis in vitro and inhibit tumor growth in vivo in human multiple myeloma.	BMC Cancer. 2014 Nov 26;14:882.
11	Kanaji N	血液・免疫・呼吸器内科	Increases in Serum CYFRA21-1 Concentration during Successful Treatment with Crizotinib.	Am J Case Rep. 2014 Nov 3;15:480-4.
12	Imataki O	血液・免疫・呼吸器内科	NKT cell-infiltrating aseptic meningitis on the central nervous system in Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia treated with dasatinib.	Ann Hematol. 2014 Nov;93(11):1935-6.
13	Watanabe N	血液・免疫・呼吸器内科	Anaplastic lymphoma kinase gene analysis as a useful tool for identifying primary unknown metastatic lung adenocarcinoma.	Intern Med. 2014;53(23):2711-5. Epub 2014 Dec 1.
14	Nishiyama N	血液・免疫・呼吸器内科	Esophageal anthracosis with tuberculous lymphadenitis confirmed on transesophageal endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Intern Med. 2014;53(6):577-80.
15	Sofue T	循環器・腎臓・脳卒中内科学	Association between post-transplantation immunoglobulin A deposition and reduced allograft function.	Transplant Proc. 2015 Mar;47(2):332-6

16	Nishijima Y	循環器・腎臓・脳卒中内科学	Circadian rhythm of plasma and urinary angiotensinogen in healthy volunteers and in patients with chronic kidney disease.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2014 Dec;15(4):505-8.
17	Okamoto N	循環器・腎臓・脳卒中内科学	Prognostic value of circulating regulatory T cells for worsening heart failure in heart failure patients with reduced ejection fraction.	Int Heart J. 2014;55(3):271-7
18	Nishioka S	循環器・腎臓・脳卒中内科学	The cyclin-dependent kinase inhibitor p21 is essential for the beneficial effects of renal ischemic preconditioning on renal ischemia/reperfusion injury in mice.	Kidney Int. 2014 Apr;85(4):871-9
19	Mori H	消化器・神経内科学	Development of pure endoscopic full-thickness resection with mechanical countertraction and double-armed bar suturing systems.	Gastrointest Endosc,79: 24-25,2014.01
20	Mori H	消化器・神経内科学	Feasibility of pure EFTR using an innovative new endoscopic suturing device: the Double-arm-bar Suturing System (with video).	Surg Endosc,28: 683-690,2014.02
21	Mori H	消化器・神経内科学	Pure endoscopic full-thickness resection with peritoneoscopy and omentectomy.	J Digest Dis,15: 96-101,2014.02
22	Miyoshi H	消化器・神経内科学	Expression profiles of 507 proteins from a biotin label-based antibody array in human colorectal cancer.	Oncol Rep,31: 1277-1281,2014.03
23	Miyoshi H	消化器・神経内科学	Effect of the anti-diabetic drug metformin in hepatocellular carcinoma in vitro and in vivo.	Int J Oncol,45(1): 322-332,,2014.07
24	Kobara H	消化器・神経内科学	Evaluation of gastric submucosal tumors using endoscopically visualized features with submucosal endoscopy.	Oncol Lett,8(1): 161-168,,2014.07
25	Mori H	消化器・神経内科学	Balloon-Armed Mechanical Counter Traction and Double-Armed Bar Suturing Systems for Pure Endoscopic Full-thickness Resection.	Gastroenterology,147(2): 278-280,2014.08
26	Mimura S	消化器・神経内科学、	Profile of microRNAs associated with aging in rat liver.	Int J Mol Med,34: 1065-1072,2014.08
27	Mori H	消化器・神経内科学	Reduction effect of bacterial counts by preoperative saline lavage of the stomach in performing laparoscopic and endoscopic cooperative surgery.	World J Gastroentero,20(42): 15763-15770,2014.11
28	Yoshida S	消化器・神経内科学	Extrahepatic platelet-derived growth factor-beta, delivered by platelets, promotes activation of hepatic stellate cells and biliary fibrosis in mice.	Gastroenterology,147(6): 1378-1392,2014.12
29	Mori H	消化器・神経内科学	Local steroid injection prevent deformity and stenosis of stomach after large endoscopic submucosal dissection.	Am J Digest Dis ,1(2):136-142,2014.12
30	Nishiyama N	消化器・神経内科学	Esophageal anthracosis with tuberculous lymphadenitis confirmed on transesophageal endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle aspiration.	Internal Med,53: 577-580,2014.02
31	Mori H	消化器・神経内科学	An effective and safe gastric endoscopic submucosal dissection in the right lateral position using an inverted overtube.	World J Gastroentero,20(6): 1623-1625,2014.02
32	Fujihara S	消化器・神経内科学	Esophageal natural killer (NK)/T cell lymphoma of true natural killer cell origin.	Endoscopy,46(S1): E77-E78,2014.03

33	Nishiyama N	消化器・神経内科学	Over-the-scope clip system is effective for the closure of post-endoscopic submucosal dissection ulcer, especially at the greater curvature.	Endoscopy,46(S1): E130-131,2014.03
34	Kume K	消化器・神経内科学	Advantage of 11C-methionine positron emission tomography for assessing IgG4-related central nervous system lesions.	J Neurol,261: 625-627,2014.03
35	Mori H	消化器・神経内科学	Efficient and safe esophageal endoscopic submucosal dissection using inverted overtube after changing patient position(with video).	Endoscopy,46(S1): E88-E89,2014.03
36	Kobara H	消化器・神経内科学	Successful endoscopic treatment of Boerhaave syndrome using an over-the-scope clip.	Endoscopy,46(S1): E82-E83,2014.03
37	Mori H	消化器・神経内科学	Two rare gastric hamartomatous inverted polyp cases suggest the pathogenesis of growth.	World J Gastroentero,20(19): 5918-5923,2014.05
38	Kume K	消化器・神経内科学	Usefulness of the modified F-ratio for assessments of proximal conduction in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy superimposed on Charcot-	J Neurol Sci,343(1-2): 237-239,2014.08
39	Takata T	消化器・神経内科学	Unilateral mydriatic tonic pupil as an early isolated symptom of neurosyphilis.	J Neurol Sci,344(1-2): 219-220,2014.09
40	Mori H	消化器・神経内科学	Effective hemostasis for rupture of gastric exposed aneurysm with Over-The-Scope-Clip (with video).	Digest Endosc,26(5): 681,2014.09
41	Nishiyama N	消化器・神経内科学	Novel method to prevent gastric antral strictures after endoscopic submucosal dissection: Using triamcinolone.	World J Gastroentero,20(33):11910-11915,2014.09
42	Kobara H	消化器・神経内科学	Endoscopically visualized features of gastric submucosal tumors on submucosal endoscopy.	Endoscopy,46:E660-E661,2014.12
43	Kobara H	消化器・神経内科学	Submucosal tunneling techniques: current perspectives.	Clin Exp Gastroenterol,5: 67-74,2014.04
44	Fujihara S	消化器・神経内科学	Current innovations in endoscopic therapy for the management of colorectal cancer: From endoscopic submucosal dissection (ESD) to endoscopic full-thickness	Biomed Res Int,2014: 925058,2014.04
45	Morishita A	消化器・神経内科学	Targeting receptor tyrosine kinases in gastric cancer.	World J Gastroentero,20(16): 4536-4545,2014.04
46	Nakai Kozo	皮膚科	Transepidermal growth in disseminated Fusarium infection	THE JOURNAL OF DERMATOLOGY 41 巻8号770-771ページ 2014.08
47	YONEDA K	皮膚科	Detection of apoptotic keratinocytes in a case of bullous pemphigoid developed after graft-versus-host disease.	Acta Derm Venereol 94巻2号231-232ページ 2014.05
48	Yokoi I	皮膚科	Successful treatment of primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma with intralesional methotrexate therapy.	Acta Derm Venereol 94巻3号319-320ページ 2014.05
49	Moriue T	皮膚科	Multi-branched acquired periungual fibrokeratoma.	JAMA Dermatol 150巻 4号456-457ページ 2014.04
50	Kusaka T	Department of Pediatrics	Evaluation of cerebral circulation and oxygen metabolism in infants using near-infrared light.	Brain Dev. 36・4・277-283・2014

51	Koyano K	Department of Pediatrics	Changes in (99m)Tc-ECD SPECT and magnetic resonance angiography with sporadic hemiplegic migraine in a child.	Clin Nucl Med.39•5•483-484•2014
52	Nakamura S,	Department of Pediatrics	Relationship between early changes in cerebral blood volume and electrocortical activity after hypoxic-ischemic insult in newborn piglets.	Brain Dev.36•7•563-571•2014
53	Suzuki H	Department of Pediatrics	Clinically mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenic lesion caused by human parvovirus b19 infection: a case of two brothers with hereditary spherocytosis.	Pediatr Neurol.51•3•470-472•2014
54	Hitoshi O	Department of Pediatrics	Neonatal Dubin-Johnson Syndrome: Novel compound heterozygous mutation in the ABCC2 gene	Pediatrics International,56•5•e62-e64•2014
55	Sugino M	Department of Pediatrics	Evaluation of bilirubin displacement effect by acetaminophen in vitro.	Ann Clin Biochem.52•4•476-480•2014
56	Nakamura M	Department of Pediatrics	Cerebral blood volume measurement using near-infrared time-resolved spectroscopy and histopathological evaluation after hypoxic-ischemic insult in newborn piglets.	International Journal of Developmental Neuroscience.42•1-9•2015
57	Ohta K	神経機能形態学	Prolonged maternal separation disturbs the serotonergic system during early brain development.	Int J Dev Neurosci. 2014 Apr;33:15-21.
58	Hata T	周産期学婦人科学	HDlive rendering image of adnexal tumors: preliminary report.	J Med Ultrasonics 41(2):181-186. 2014年4月
59	Hanaoka U	周産期学婦人科学	HDlive imaging of the fetal face in fetuses with autosomal trisomies.	J Med Ultrasonics 41(3):339-342. 2014年6月
60	Sato M	周産期学婦人科学	4D ultrasound study of fetal facial expressions at 20-24 weeks of gestation.	Int J Gynecol Obstet 126(3):275-279. 2014年9月
61	Hata T	周産期学婦人科学	Four-dimensional color Doppler reconstruction of the fetal heart with glass-body rendering mode.	Am J Cardiol 114(10):1603-1606. 2014年11月
62	Yamashita Y	心臓血管外科	Biatrial Myxomas With Various Manifestations - Carney Complex.	Circulation Journal 2015 Jun 25;79(7):1639-40
63	Kakinoki K	消化器外科学	A novel triple secured technique of pancreatic reconstruction for a soft pancreas.	Hepato-Gastroenterol 2014 Mar-Apr;61(130):469-74.
64	Yamamoto N	消化器外科学	Clinicopathology of recurrent hepatocellular carcinomas after radiofrequency ablation treated with salvage surgery.	Hepato Res 4, 1062-1071, 2014
65	Okano K	消化器外科学	Factors predicting survival and pathological subtype in patients with ampullary adenocarcinoma.	J Surg Oncol 110(2), 156-162, 2014
66	Okano K	消化器外科学	Strategies for early detection of resectable pancreatic cancer.	World J Gastroenterol 20(32), 11230-11240, 2014
67	Okano K	消化器外科学	Factors influencing lymph node metastasis in patients with ampullary adenocarcinoma.	Dig Surg, 31(6), 459-467, 2014
68	Yoshida C	呼吸器外科	Three-dimensional computed tomography reveals anatomical variant of meandering pulmonary vein.	Eur J Cardiothorac Surg. 45 . 4. 759

69	Tarumi S	呼吸器外科	Clinical trial of video-assisted thoracoscopic segmentectomy using infrared thoracoscopy with indocyanine green.	Eur J Cardiothorac Surg. 46. 1. 112-115
70	Nii K	呼吸器外科	Overexpression of G protein-coupled receptor 87 correlates with poorer tumor differentiation and higher tumor proliferation in non-small-cell lung	Mol Clin Oncol. 2. 4. 539-544
71	Kontani K	乳腺内分泌外科	Factors responsible for long-term survival in metastatic breast cancer.	World J Surg Oncol. 12. 344
72	Go T	呼吸器外科	Role of surgery in multi-modality treatment for carcinomatous pleuritis in patients with non-small cell lung cancer.	Surg Today. 45. 2. 197-202
73	Tarumi S	呼吸器外科	Pulmonary rehabilitation during induction chemoradiotherapy for lung cancer improves pulmonary function.	J Thorac Cardiovasc Surg. 149. 2. 569-573
74	Nakamura O	Department of Orthopaedic Surgery	The combination of rapamycin and MAPK inhibitors enhances the growth inhibitory effect on Nara-H cells.	Int J Mol Med. 2014 Jun;33(6):1491-7
75	Iwata K	Department of Orthopaedic Surgery	A large amount of microdamages in the cortical bone around fracture site in a patient of atypical femoral fracture after long-term bisphosphonate therapy	Bone. 2014 Jul;64:183-6
76	Inokuchi T	Department of Orthopaedic Surgery	Parosteal osteoma of the clavicle.	Case Rep Orthop. 2014;2014:824959
77	Mori M	Department of Orthopaedic Surgery	Hsp90 inhibitor induces autophagy and apoptosis in osteosarcoma cells.	Int J Oncol. 2015 Jan;46(1):47-54
78	Nagasao T	形成外科	Combined usage of hydroxyapatite and cross-finger flap for fingertip reconstruction.	J Plast Surg Hand Surg.48(3)•205-8•2014 Jun
79	Nagasao T	形成外科	Irregular location of major pectoral muscle can be a causative factor of pectus excavatum.	Med Hypotheses. 82 (5)•512-7•2014 May
80	Sugimoto M	泌尿器科	Should inclusion criteria for active surveillance for low-risk prostate cancer be more stringent? From an interim analysis of PRIAS-JAPAN.	World J Urol. 2015 Jul;33(7):981-7.
81	Taoka R,	泌尿器科	Impact of trait anxiety on psychological well-being in men with prostate cancer.	Int Braz J Urol. 2014 Sep-Oct;40(5):620-6.
82	Taoka R,	泌尿器科	In-Vitro Cytocidal Effect of Water on Bladder Cancer Cells: The Potential Role For Intraperitoneal Lavage During Radical Cystectomy.	Can Urol Assoc J. 2015 Mar-Apr;9(3-4):E109-13.
83	Hirama H,	泌尿器科	The impact of baseline [-2]proPSA-related indices on the prediction of pathological reclassification at 1?year during active surveillance for low-risk prostate cancer: the Japanese multicenter study cohort.	J Cancer Res Clin Oncol. 2014 Feb;140(2):257-63.
84	Kato T	泌尿器科	Rac1-dependent lamellipodial motility in prostate cancer PC-3 cells revealed by optogenetic control of Rac1 activity.	PLoS One. 2014 May 21;9(5):e97749.
85	Kawai N	脳神経外科	Correlation between ??F-fluoromisonidazole PET and expression of HIF-1 alpha and VEGF in newly diagnosed and recurrent malignant gliomas.	Eur J Nucl Med Mol Imaging 41: 1870-1878, 2014

86	Shindo A	脳神経外科	Treatment of Acute Cerebral Artery Occlusion Using the Penumbra System: Our Early Experience	Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 441-449, 2014
87	Tenkumo K	眼科	Effect of the renin inhibitor aliskiren against retinal ischemia-reperfusion injury.	Experimental Eye Research 122:110-118.2014
88	Hirooka K	眼科	Correlation between intraocular pressure fluctuation with postural change and postoperative intraocular pressure in relation to the time course after trabeculectomy	Journal of Ophthalmology 2014:801967
89	Hirooka K	眼科	Use of structure-function relationship in detecting glaucoma progression in early glaucoma	BMC Ophthalmology Oct4;14:118
90	Shiragami C	眼科	Effect of switching therapy to pegaptanib in eyes with the persistent cases of exudative age-related macular degeneration	Medicine (Baltimore);93(18):e116,2014
91	Shiragami C	眼科	A Method to decrease the frequency of unintentional slippage after vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment.	Retina.35(4):758-763.2015
92	Manabe S	眼科	Change of regional choroid thickness after reduced-fluence photodynamic therapy for chronic central serous chorioretinopathy	American Journal of Ophthalmology. 159(4):644-651.2015
93	Akiyama K	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Usefulness of nasal packing with silver-containing carboxy methylated cellulose in endonasal sinus surgery	Auris Nasus Larynx 41(3) :264-268 2014.Jun
94	Matsubara A	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Cystic fibrosis transmembrane conductance regulator in the endolymphatic sac of the rat 41:409-412	Auris Nasus Larynx 41(5):409-412 2014.Oct
95	Indo K	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Effects of D-allose in combination with docetaxel in human head and neck cancer cells 45:2044-2050	Int. J. Oncology 45(5):2044-2050 2014.Nov
96	Hoshikawa H	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Predictive value of SUV-based parameters derived from pre-treatment 18F-FLT PET/CT for short-term outcome with head and neck cancers	Ann Nucl Med 28(10):1020-1026 2014.Dec
97	Hoshikawa H	放射線治療科	Accelerated hyperfractionated radiotherapy for small cell carcinoma of the nasopharynx.	Head Neck. 2015 May;37(5):E63-5. doi: 10.1002/hed.23888. Epub 2015 Mar 29.
98	Hayashi T	病理診断科・病理部	Cytopathologic characteristics and differential diagnostic considerations of osteolytic myxopapillary ependymoma.	Diagnostic Cytopathology.42(9):778-83,2014
99	Hayashi T	病理診断科・病理部	Pilomyxoid astrocytoma of the pineal region: cytopathological features and differential diagnostic considerations by intraoperative smear preparation.	Diagnostic Cytopathology.43(2):121-4,2015
100	Miyake M	歯科口腔外科学	Superselective Intra-arterial Infusion Chemotherapy with Nedaplatin for Oral Cancer: A Pharmacological Study of the Dose Clearance	Journal of Maxillofacial and Oral Surgery 2015 Sep;14(3):616-23.
101	Miyake M	歯科口腔外科学	Metastasis in the gingiva from colon adenocarcinoma.	J Maxillofac Oral Surg.2015 Mar;14(Suppl 1):279-82.
102	Maeda Y	放射線部	Applicability of emission-based attenuation map for rapid CBF, OEF, and CMRO2 measurements using gaseous 15O-labeled	EJNMMI Physics (2015) 2:12

103	Hifumi T	救命救急センター	Effect of antivenom therapy of Rhabdophis tigrinus (Yamakagashi snake) bites	Journal of Intensive Care 2014, 2:44
104	Hifumi T	救命救急センター	Clinical characteristics of red-back spider bites	Journal of Intensive Care 2014, 2:19
105	Hifumi T	救命救急センター	Effect of Admission Glasgow Coma Scale Motor Score on Neurological Outcome in Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients Receiving Therapeutic Hypothermia	Circulation Journal 79(10):2201-8.
106	Hifumi T	救命救急センター	The impact of age on outcomes of elderly ED patients ventilated due to community acquired pneumonia	Am J Emerg Med 2015 33(2):277-81.
107	Hifumi T	救命救急センター	Thyroid hormone alterations in trauma patients requiring massive transfusion: An observational study.	World J Emerg Med 2014;5(4):270-4.
108	Tsuji A	臨床腫瘍学	Phase I study of adjuvant gemcitabine or S-1 in patients with biliary tract cancers undergoing major hepatectomy: KHBO1003 study.	Cancer Chemother Pharmacol. 2014 Oct;74(4):699-709.
109	Tsuji A	臨床腫瘍学	Lapatinib plus paclitaxel versus paclitaxel alone in the second-line treatment of HER2-amplified advanced gastric cancer in Asian populations: TyTAN--a randomized, phase III study.	J Clin Oncol.2014 Jul 1;32(19):2039-49.
110	Tsuji A	臨床腫瘍学	Phase II trial of nanoparticle albuminaxel as second-line chemotherapy for unresectable or recurrent gastric cancer.	Cancer Sci. 2014 Jul;105(7):812-7.
111	Tsuji A	臨床腫瘍学	Determination of prognostic factors in Japanese patients with advanced gastric cancer using the data from a randomized controlled trial, Japan clinical oncology group 9912.	Oncologist. 2014 Apr; 19(4): 358-366.
112	Tsuji A	臨床腫瘍学	Phase I study of adjuvant chemotherapy with gemcitabine plus cisplatin in patients with biliary tract cancer undergoing curative resection without major hepatectomy(KHBO1004).	Cancer Chemother Pharmacol.73(6)1295-1301.
113	Tsuji A	臨床腫瘍学	Addition of docetaxel to S-1 without platinum prolongs survival of patients with advanced gastric cancer: a randomized study (START).	J Cancer Res Clin Oncol. 2014 Feb;140(2):319-28
114	Watanabe M	Department of Pharmacy	Developing population pharmacokinetic parameters for high-dose methotrexate therapy: implication of correlations among developed parameters for individual parameter estimation using the Bayesian least-squares method.	Biol Pharm Bull. 2014;37(6):916-21.
115	Shintani T	Department of Community Medicine	Cbl negatively regulates erythropoietin-induced growth and survival signaling through the proteasomal degradation of Src kinase.	Blood Cells & Molecular Diseases 53(4): 211-218, 2014.
116	Hasan AU	Department of Cell Physiology	Valsartan ameliorates the constitutive adipokine expression pattern in mature adipocytes: a role for inverse agonism of the angiotensin II type 1 receptor in obesity.	Hypertens Res.2014 Jul;37(7):621-8



117	Tsukamoto I	Department of Cell Physiology	Intestinal absorption, organ distribution, and urinary excretion of the rare sugar D-psicose.	Drug Des Devel Ther. 8,1955-1964, 2014
118	Liu Y	Department of Cell Physiology	The effects of D-allose on transient ischemic neuronal death and analysis of its mechanism.	Brain Res Bull.2014 Oct;109:127-31
119	Hossain A	Department of Cell Physiology	Rare sugar D-psicose prevents progression and development of diabetes in T2DM model Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty rats.	Drug Des Devel Ther.2015 Jan 17;9:525-35
120	Nishioka S	薬理学	The cyclin-dependent kinase inhibitor p21 is essential for the beneficial effects of renal ischemic preconditioning on renal ischemia/reperfusion injury in mice.	Kidney Int. Apr;85(4):871-879, 2014
121	Kitada K	薬理学	Hyperglycemia causes cellular senescence via a SGLT2- and p21-dependent pathway in proximal tubules in the early stage of diabetic nephropathy	J Diabetes Complications. Sep-Oct;28(5):604-611, 2014
122	Rafiq K	薬理学	Regression of glomerular and tubulointerstitial injuries by dietary salt reduction with combination therapy of angiotensin II receptor blocker and calcium channel blocker in Dahl salt-sensitive rats.?	PLoS One. Sep 18;9(9):e107853, 2014
123	Nishijima Y	薬理学	Circadian rhythm of plasma and urinary angiotensinogen in healthy volunteers and in patients with chronic kidney disease.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. Dec;15(4):505-508, 2014
124	Shibayama Y	薬理学	(Pro)renin receptor is crucial for Wnt/beta-catenin-dependent genesis of pancreatic ductal adenocarcinoma.	Sci Rep. Mar 9;5:8854, 2015
125	Tsuboi K	生化学	Glycerophosphodiesterase GDE4 as a novel lysophospholipase D: a possible involvement in bioactive N-acylethanolamine biosynthesis	Biochim Biophys Acta - Mol Cell Biol Lipids 1851:537-548, 2015 Jan
126	Nakano Y	腫瘍病理学	Rat strain differences in levels and effects of chronic inflammation due to intratracheal instillation of quartz on lung tumorigenesis induced by DHPN. Exp.	Exp. Toxicol. Pathol., 66(8):391-401, 2014.
127	Yokohira M	腫瘍病理学	Immunohistochemical characteristics of surfactant proteins-A, -B, -C and -D in inflammatory and tumorigenic lung lesions of F344 rats.	Toxicol. Pathol., 27(3-4):175-182, 2014.
128	Yokohira M	腫瘍病理学	Napsin A is possibly useful marker to predict the tumorigenic potential of lung bronchiolo-alveolar hyperplasia in F344 rats.	Exp. Toxicol. Pathol., 66:117-123, 2014
129	Kishi S	腫瘍病理学	Significance of the progesterone receptor and epidermal growth factor receptor, but not the estrogen receptor, in chemically induced lung carcinogenesis in female A/J mice.	Oncol. Lett., 8(6):2379-2386, 2014

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科	【最新関節リウマチ学ー寛解・治癒を目指した研究と最新治療ー】関節リウマチの合併症 リンパ節病変	日本臨床 最新関節リウマチ学
2	植村麻希子	血液・免疫・呼吸器内科	Picture in Clinical Hematology(No.72) 造血幹細胞移植後に劇症化したganciclovir耐性HHV-6脳炎	臨床血液
3	藤森絢子	血液・免疫・呼吸器内科	Picture in Clinical Hematology(No.73) 乳房原発のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	臨床血液
4	泉川美晴	血液・免疫・呼吸器内科	【関節リウマチの診療 身体機能障害をきたさないためのアプローチ】《RAの治療 Up-to-date》 RAの関節外病変への対応	Modern Physician
5	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科	関節リウマチ患者喀痰中の抗CCP抗体	リウマチ科
6	三好久昭	消化器・神経内科	特集Ⅱ生活習慣と肝・胆疾患 抗糖尿病薬メホルミンの肝癌細胞抑制メカニズム	消化器内科,58(5): 688-696,2014.05
7	谷 丈二	消化器・神経内科	専門医部会四国支部例会教育セミナー B型肝炎ウイルスの再活性化	日本内科学会雑誌,103: 1397-1405,2014.06
8	出口一志	消化器・神経内科	脳神経内科領域におけるめまいの診療	ラウンドミラー,32: 5-8,2014.07
9	森上 徹也	皮膚科	タブレット型コンピュータとオンライン動画共有サービスを用いた小児アトピー性皮膚炎患児とその保護者に対する軟膏外用指導の右田氏の検討	西日本皮膚科 第77巻 第1号
10	伊藤進	小児科	神経症候群(第2版)ーその他の神経疾患を含めてー III ビリルビン代謝異常	日本臨床
11	西庄佐恵	小児科	クループ症候群	小児科診療
12	谷本公重	小児科	香川県内の保育所における母乳育児支援の実態調査	小児保健研究
13	鈴木裕美	小児科	当院における地域と密着した18 trisomy管理についての検討	日本小児科学会雑誌
14	原田こと葉	小児科	無治療で症状の改善を認めたFisher症候群	日本小児科学会雑誌
15	日下隆	小児科	近赤外光分析法	周産期医学
16	及川薫	小児科	ESBL産生大腸菌による再燃性細菌性髄膜炎の新生児例	日本小児科学会雑誌

17	鈴木裕美	小児科	ヘルペスウイルスEBV(PVDB19)感染症による可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症(MERS)を発症した遺伝性球状白血球症の1例	日本小児科学会雑誌
18	久保裕之	小児成育外科	新生児副腎腫瘍の2例 神経芽腫と副腎出血の比較	日本小児科学会雑誌
19	神内済	小児科	正期産新生児早発黄疸5症例のまとめ	日本小児科学会雑誌
20	中村信嗣	小児科	当院における低酸素性虚血性脳症(HIE)・低体温療法(HT)施行例に関する検討	日本小児科学会雑誌
21	西庄佐恵	小児科	乳児アトピー性皮膚炎の治療について	日本小児科学会雑誌
22	安田真之	小児科	母体に対するピロキシル系抗菌薬投与により、イソ吉草酸血症偽陽性を認めた新生児例	日本小児科学会雑誌
23	日下隆	小児科	新生児低酸素性虚血性脳症	日本小児科学会雑誌
24	小西行彦	小児科	早産児の乳児期における顔認知の発達の变化について	脳と発達
25	久保 裕之	小児成育外科	小児精巣微小石灰化症の発生頻度とその臨床的検討	日本小児外科学会雑誌 50巻5号 p.884-889 2014年8月
26	久保 裕之	小児成育外科	小児排便時下血症例に対するCT colonographyの経験	日本小児外科学会雑誌 50巻4号 p.826-830 2014年6月
27	張 性洙	呼吸器外科	チェックバルブ機構の関与による空洞形成が疑われた肺腺癌	胸部外科
28	横見瀬 裕保	呼吸器外科	術前化学療法(術前化学放射線療法)	日本外科学会雑誌
29	笠井 由隆	呼吸器外科	赤外線血流測定	胸部外科
30	岩田 憲	整形外科	THA再置換(白蓋側) KTプレートを使用した人工股関節再置換術の短期成績	日本人工関節学会誌
31	千田 鉄平	整形外科	頸椎化膿性脊椎炎の手術治療成績 経皮的な手技と従来法の比較	中部日本整形外科災害外科学会雑誌
32	田中 健太郎	整形外科	肩鎖関節脱臼に対しclavicle hook plateとWeaver変法を併用した症例の術後成績	中部日本整形外科災害外科学会雑誌
33	森 正樹	整形外科	UKA 外側型変形性膝関節症に対する人工膝単顆置換術の術後成績	日本人工関節学会誌
34	高田 成基	整形外科	HAアプローチ Direct Anterior ApproachにおけるAccolade stemの使用経験 後方アプローチとの比較	日本人工関節学会誌
35	中村 修	整形外科	肘関節脱臼に伴う肘関節靭帯損傷に対するSuture Anchorを用いた修復術の治療成績	日本肘関節学会雑誌
36	亀山 真一郎	整形外科	手指の高度屈曲拘縮に対するY-V法とdigito-lateral flapによる皮膚延長の有用性	中部日本整形外科災害外科学会雑誌

37	岩田 憲	整形外科	骨盤後傾を伴う大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折の組織学的検討	Hip Joint
38	西村 英樹	整形外科	UKA後対側コンパートメントに生じた骨壊死に対しUKAを追加した2例	中国・四国整形外科学会雑誌
39	竹森 俊幸	整形外科	Dupuytren拘縮に対する創部開放療法に人工真皮被覆を併用した2例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌
40	千田 鉄平	整形外科	超高齢者軟部肉腫の治療成績	中部日本整形外科災害外科学会雑誌
41	山口 幸之助	整形外科	手に発生した非結核性抗酸菌感染症に対する治療	日本手外科学会雑誌
42	中村 修	整形外科	当科におけるDupuytren拘縮の手術治療成績	日本手外科学会雑誌
43	北村 悠樹	泌尿器・副腎・腎移植外科	ビカルタミド治療中に乳房痛を発現した前立腺癌患者に対するフルタミドへの変更療法の有用性に関する研究.	泌尿器科紀要 PMID:24594768
44	河井信行	脳神経外科	Flumazenil PETを用いた高次脳機能障害における局所性細胞障害の診断	PET journal 26: 42-44, 2014
45	辻川明孝	眼科	中心性漿液性脈絡網膜症	「黄斑疾患診療A to Z」、131-143
46	辻川明孝	眼科	EDIとSS-OCT	「黄斑疾患診療A to Z」、144-146
47	辻川明孝	眼科	いまさら聞けないOCTの活かし方 網膜血管病変のOCT撮影	眼科グラフィックス3:6-11
48	辻川明孝	眼科	診療指針のパラダイムシフト. 加齢黄斑変性の治療	眼科56:134-141
49	辻川明孝	眼科	硝子体内注射に伴う合併症	日本眼科学会雑誌 118:631-632
50	廣岡一行	眼科	視野計の仕組みと基本的な使い方4.眼底視野計	あたらしい眼科 31(7):953-961
51	白神千恵子	眼科	特集 加齢黄斑変性:疫学から治療まで, 前駆病変	Pharma Medica 32(10),21-26
52	白神千恵子	眼科	Up to date 加齢黄斑変性 高橋寛二(編), 6. マクゼンの使用方法Monthly Book	OCULISTA(オクリスタ) 18(9), 38-43
53	白神千恵子	眼科	(特集 黄斑疾患診療の進歩) 眼底自発蛍光による黄斑疾患評価	眼科 56(12):1395-1405
54	白神千恵子	眼科	特集/①脈絡膜と網膜疾患 糖尿病脈絡膜症	臨床眼科69(2):152-156
55	白神千恵子	眼科	硝子体・網膜病変の診かた(私はこちら診る) 黄斑疾患. 萎縮型AMD	眼科臨時増刊号 57(4):528-533
56	廣岡一行	眼科	医師が語る処方箋の裏側 片眼のみ眼圧が高い女性への配合点眼薬にコンソフトを選ぶ理由	日経ドラッグインフォメーション 7:016

57	廣岡一行	眼科	学会印象記 -AAO 2014に参加して-	VISION TIMES 22:26-27
58	秋山貢佐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	巨大な鼻中隔多形腺腫例	耳鼻臨床 107(7):523-527
59	松原あい	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	ラット内リンパ嚢におけるcystic fibrosis transmembrane conductance regulatorの発現	耳鼻咽喉科ニューロサイエンス 28:75-78
60	宮下武憲	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	マウス内リンパ嚢上皮細胞におけるProx1の発現	耳鼻咽喉科ニューロサイエンス 28:79
61	菅原友道	麻酔・ペインクリニック科	呼吸器内視鏡におけるMAC	麻酔2015;64:263-269
62	白神豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	小手術には小麻酔	麻酔2015;64:115
63	臼杵尚志	手術部	手術室の理想的な運営方法を探る	日本手術医学会誌 第35巻1号、P32-33 2014年2月発行
64	林田有史	泌尿器・副腎・腎移植外科	腎移植維持期タクロリムス併用下における、ミコフェノール酸の血中濃度時間曲線下面積簡易推定法の検討	Journal of Japanese Society for Clinical Renal Transplantation 2(2): 160-173 2014
65	田中直子	法医学	エーボックス4000を用いた一酸化炭素ヘモグロビン飽和度測定における試料希釈の影響.	法医病理. 20: 39-40, 2014
66	岡田 宏基	医学教育学	機能性身体症候群FSSと機能性障害に対する一般医向けの対応プログラムについて	医学と薬学
67	岡田宏基	医学教育学	地域再生基金によるかかつ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)の機能強化-K-MIXからK-MIX+へ、そしてどこでもMY病院の実現をめざして-	日本遠隔医療学会雑誌
68	岡田 宏基	医学教育学	MECS, FSS, 身体表現性障害、そして心身症 -概念の理解と整理についての私案および一般医へのトレーニングプログラム-	心身医学
69	岡田 宏基	医学教育学	身体症状症	今日の治療指針(2015年版)
70	西屋克己	医学教育学	医学教育における反転授業トライアル	香川大学教育研究
71	西屋克己	医学教育学	これからの医療面接実習-地域から世界へ羽ばたく医師の育成を目指して-	新しい医学教育の流れ

計 71

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 1 医学部倫理委員会の趣旨及び設置 (1) 趣旨 (2) 設置 2 委員会の組織等 (1) 組織 (2) 委員長 (3) 専門委員等 3 委員会の任務 4 審査の観点 5 審査の開始 (1) 審査の開始 (2) 審議方法の判定等 6 通常審議 (1) 委員会の開催 (2) 委員会の成立要件等 (3) 審査の判定及び通知 7 迅速審査 (1) 迅速審査の実施 (2) 審査の判定及び通知 8 議事要旨等の保存及び公表 (1) 議事要旨等の保存 (2) 議事要旨等の公表 9 委員の守秘義務 10 委員会委員名簿 11 その他	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 4 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>香川大学医学部に、臨床研究利益相反委員会を置き、委員会は、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかでない場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会又は医薬品等臨床研究審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	<p>年0回</p> <p>※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかでない場合のみ随時開催することとしている。</p>

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>研究者等の臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識の向上を目的として、平成26年10月1日及び平成27年2月17日に医学部倫理委員会教育訓練講習会を実施した。また、平成26年8月5日にはヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会を実施した。</p>	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

下記の研修統括者を代表とする指導医の適切な指導の下、各専門領域の高度医療に関する研修指針に基づく体系的な指導を行うとともに、多職種からなる定期的なカンファレンス、医療安全・感染制御及び医療倫理等の講習会等の参加機会を確保し、チーム医療や安全管理等の実践教育を行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	33.9 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
村尾 孝児	内分泌代謝内科	教授	25年	
門脇 則光	血液内科	教授	29年	
土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	講師	23年	
坂東 修二	呼吸器内科	講師	24年	
大森 浩二	循環器内科	准教授	29年	
祖父江 理	腎臓内科	講師	11年	
河野 雅和	抗加齢血管内科	教授	39年	
正木 勉	消化器内科	教授	25年	
出口 一志	神経内科	准教授	29年	
舛形 尚	総合内科	教授	29年	
窪田 泰夫	皮膚科	教授	36年	
中村 祐	精神科神経科	教授	29年	
日下 隆	小児科	教授	24年	
秦 利之	周産期科女性診療科	教授	35年	
堀井 泰浩	心臓血管外科	教授	27年	
鈴木 康之	消化器外科	教授	32年	
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	34年	
紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	准教授	32年	
下野 隆一	小児成育外科	准教授	27年	
山本 哲司	整形外科	教授	32年	
田中 嘉雄	形成外科・美容外科	教授	36年	
杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	准教授	27年	
田宮 隆	脳神経外科	教授	34年	
辻川 明孝	眼科	教授	22年	
星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	25年	
柴田 徹	放射線治療科	教授	27年	
西山 佳宏	放射線診断科	教授	25年	
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	31年	
羽場 礼次	病理診断科	准教授	25年	
黒田 泰弘	救命救急センター	教授	31年	
三宅 実	歯・顎・口腔外科	教授	28年	



- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容  
エキスパート研修 看護職員を対象とし、緩和ケア、糖尿病看護、新生児集中ケア等の専門分野におけるエキスパートの育成を目的とする
- ・研修の期間・実施回数  
年 50 回程度
- ・研修の参加人数（延べ数）  
平成 26 年度 1585 名（院外従事者含む）
  
- ・研修の主な内容  
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に医薬品の適正使用について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数  
適宜 年数回
- ・研修の参加人数  
各病棟 5～10 名程度
  
- ・研修の主な内容  
診療放射線技師を対象とする放射線部勉強会
- ・研修の期間・実施回数  
週 1 回
- ・研修の参加人数  
約 25 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容  
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に麻薬・向精神薬の管理について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数  
適宜 年数回
- ・研修の参加人数  
各病棟 5～10 名程度
  
- ・研修の主な内容  
放射線部に所属する全職種責任者による放射線部安全運営会議
- ・研修の期間・実施回数  
月 1 回
- ・研修の参加人数  
約 10 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 横見瀬 裕保	
管理担当者氏名	総務課長 小野 浩三 薬剤部長 芳地 一	医事課長 吉野 紀章 放射線部長 柴田 徹

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医学部医事課 薬剤部 放射線部 検査部 病理部 医療情報部	診療録及び診療諸記録を電子媒体にて保存管理している。紙媒体のものについては、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1ファイル方式で共に20年を原則として、コンピューターによる集中管理を行っている
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課
	高度の医療の提供の実績	医学部医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課
	高度の医療の研修の実績	医学部医事課
	閲覧実績	医学部医事課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課
第規一則号第一に掲げる十一制第一の一項保各の号状及び第九条の二十第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課及び薬剤部
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 地域連携室 医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	の十一	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第一項	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
	第一号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
	に掲げる	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
	体制の確保の状況	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長	田辺 勇
閲覧担当者氏名	医事課長	吉野 紀章
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 1 階情報公開室	
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：別紙①のとおり	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年11回
・ 活動の主な内容： 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。 6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。 7. 医事問題に係る対策に関すること。 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年51回
・ 研修の主な内容：別紙②のとおり	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 提出されたインシデントレポートに基づき、専任RMが、毎日現場へ情報確認に行き、現場と共に確認、分析を行う。重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。 2. 毎週のカンファレンスにおいて、提出されたインシデントレポートを審議し、対応策を検討する。内容によっては専任RMが現場に向き再度対応、指導を行う。 3. 医療安全管理部員会議において、インシデントの集計、分析、再発防止策を検討し、立案した安全対策を審議する。 4. 医療安全管理部員会議において審議された内容を、医療安全管理委員会にて報告・審議を行う。 5. リスクマネージャー会議において医療安全管理委員会及び医療安全管理部の講じた対策等の情報を周知し、各現場に浸透させる。 6. 安全対策を現場にフィードバックした後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。(PDCAサイクルを回す) 7. Safetyニュース発行(毎月)：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起する。 8. 安全対策マニュアルの見直し(年1回)：最新の医療水準に基づいて、内容の見直しを毎年実施している。(RM全員と共に行っている。) 9. 医療安全に関する患者からの苦情対応を行う。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任(2)名 兼任(23)名 ・ 活動の主な内容： 病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会において審議する事項(上記②)に関して、調査、資料作成等を行うとともに、審議結果等に基づく安全管理を実施する。また、医療安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

## 1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

### 1) 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

### 2) 医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

### 3) 専任リスクマネジャー

本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

### 4) リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

### 5) 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

### 6) 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

### 7) 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

### 8) 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

### 9) 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

### 10) 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

### 11) その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。



## 平成26年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月25日	新採用研修医	26名	140分	講義「当院の安全管理体制について、インシデントレポートの記載方法、医師からのインシデント報告状況」
					講師 医療安全管理部 横見瀬 部長・外形GRM・豊嶋GRM
					実習「SBARを用いた情報伝達トレーニング」
					講師 医療安全管理部 外形GRM
2 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月31日	新採用研修医	26名	120分	講義「中心静脈穿刺方法について」
					実習「シミュレーターを用いた穿刺練習」
					講師 医療安全管理部 外形GRM 麻酔科 古泉真理 助教 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳
3 新採用者 初期安全研修	4月2日	新採用看護職員・ 復帰者	53名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
4 新採用者 初期安全研修	4月10日	新採用者・異動者・ 復帰者 (事務職員・視能訓練 士・臨床検査技師・診 療放射線技師・理学療 法士・薬剤師・外注職 員ニチイ・文教・看護師)	30名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
5 新採用者 初期安全研修	4月11日	新採用者・異動者・ 復帰者 (看護師・看護補助者・ 事務職員・派遣)	7名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
6 新リスクマネジャー研修	4月15日	リスクマネジャー	10名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 外形専任RM
7 新採用者 初期安全研修	4月15日	新採用者・異動者・ 復帰者 (医師)	21名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 外形専任RM
8 安全管理研修(講義)	4月28日	医師 後期研修医	7名	120分	講義「CVカテーテル挿入実技研修」
					講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 外形専任RM
9 安全管理研修(講義)	4月30日	医師 後期研修医	2名	120分	講義「CVカテーテル挿入実技研修」
					講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 外形専任RM
10 新採用者 初期安全研修	5月1日	新採用者・復帰者(看 護師・看護補助者・事 務職員)	9名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
11 安全管理研修(講義)	5月13日	全職員	700名	60分	講義「平成25年度 インシデント集計報告」
					講師 医療安全管理部長 田宮隆・外形専任RM・松本専任RM
	5月22,23,26, 27,28,30日	全職員 (ビデオ上映会)	337名	60分	
12 新採用者 初期安全研修	5月15日	新採用者 (事務職員・薬剤師・技 術補佐員)	4名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
13 新リスクマネジャー研修	5月29日	リスクマネジャー	4名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 外形専任RM
14 新採用者 初期安全研修	6月2日	新採用者・復帰者 (事務職員・薬剤師・看 護師)	6名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
15	安全管理研修(講義)	6月24日 全職員	554名	60分	講義 ①「強心薬(イノバシリンジ等)の安全使用について」 ②「インスリン注射剤の安全使用について」 講師 ① 協和発酵キリン(株) 担当者 ② 糖尿病センター 准教授 井町 仁美
16	新採用者 初期安全研修	7月1日 復帰者 (看護師)	1名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
17	新採用者 初期安全研修	7月7日 新採用者・復帰者 (事務職員)	5名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
18	新リスクマネジャー研修	7月15日 リスクマネジャー	2名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
19	新採用者 初期安全研修	7月16日 新採用者 (看護師)	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
20	新採用者 初期安全研修	7月24日 新採用者 (事務職員)	1名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
21	新採用者 初期安全研修	8月1日 新採用者 (看護師)	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
22	安全管理研修(講義)	8月8日 全職員	392名	60分	講義 「新しいモニタによるシステム化の利便性と注意点」 講師 日本光電中四国株式会社 清水 恭
23	新採用者 初期安全研修	8月28日 新採用者 (事務職員)	3名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	新採用者 初期安全研修	9月1日 新採用者・復帰者 (看護師)	5名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
25	安全管理研修(講義)	9月11日 全職員	526名	60分	講義 「全職員で取り組む医療安全 -報告と連携と確認-」 講師 名古屋大学医学部附属病院 教授 長尾能雅
		9月17,19,22 24,25日 全職員 (ビデオ上映会)	399名	60分	
26	新採用者 初期安全研修	9月16日 新採用者 (看護師)	1名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
27	新リスクマネジャー研修	9月16日 リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
28	新採用者 初期安全研修	9月19日 新採用者 (看護補助者)	3名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
29	新採用者 初期安全研修	9月26日 新採用者 (事務職員)	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
30	新採用者 初期安全研修	10月1日 新採用者・復帰者 (看護師・看護補助者)	6名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
31	新採用者 初期安全研修	10月9日 新採用者 (事務職員・技術補佐員)	6名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
32	安全管理研修(講義)	10月14日 全職員	499名	60分	講義 ①「プロポールの適正使用について」 ②「注射薬抗がん剤の適切な運用について」 ③「情報セキュリティについて」 講師 ① 丸石製薬(株) 学術担当者 ② 薬剤部 製剤室長 田中裕章 ③ 情報ネットワーク管理室長・医療情報部長 横井英人
33	新採用者 初期安全研修	10月16日 新採用者 (看護師・看護補助者)	5名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容	
34	安全管理研修 (ビデオ上映会)	10月22日	看護補助者	58名	60分	講義「全職員で取り組む医療安全 一報告と連携と確認」 講師 名古屋大学医学部附属病院 教授 長尾能雅
35	新採用者 初期安全研修	11月4日	新採用者 (看護師・看護補助者)	4名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
36	安全管理研修(講義)	11月13日	医師 後期研修医	1名	120分	講義「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 外形専任RM
37	安全研修	11月14日	外部委託者	4名	45分	講義「本院の安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
38	新採用者 初期安全研修	11月17日	新採用者・異動者・ 復帰者 (医師)	16名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 外形専任RM
39	安全管理研修(講義)	11月26日 12月2日	医師・看護師・ 放射線技師	421名	60分	講義「東日本大震災によるインフラと医療ガスへの影響等」 講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)多度津事業所所長補佐 山下基光
40	新採用者 初期安全研修	12月1日	復帰者 (看護師)	1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
41	新採用者 初期安全研修	12月8日	新採用者 (臨床検査技師・事務 職員・技術補助員)	7名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
42	安全管理研修(講義)	12月9日	全職員	442名	60分	講義「輸液ポンプ・シリンジポンプの使用上の注意点」 講師 株式会社ムトウテクノス 田久保 力
43	新採用者 初期安全研修	1月5日	新採用者・復帰者 (看護師・看護補助者)	3名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
44	安全管理研修(講義)	1月20日	全職員	575名	30分	講義「RRS(Rapid Response System)の導入について」 講師 医療安全管理部 副部長 舛形 尚
		1月26,27, 28,29,30日	全職員 (ビデオ上映会)	399名	30分	
45	新採用者 初期安全研修	2月2日	新採用者 (事務職員)	4名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
46	新採用者 初期安全研修	2月2日	新採用者 (看護師・看護補助者)	2名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
47	新採用者 初期安全研修	2月16日	新採用者 (看護補助者)	1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
48	新リスクマネジャー研修	2月17日	リスクマネジャー	2名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 外形専任RM
49	新採用者 初期安全研修	3月2日	新採用者 (看護師)	1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
50	新採用者 初期安全研修	3月16日	新採用者 (看護補助者)	1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM・豊嶋部員
51	安全管理研修(講義)	3月19日	全職員	453名	60分	講義 ①「当院におけるPET検査について」 ②「MRIの安全管理 -危険性のアップデート-」 講師 ①放射線部主任技師 前田幸人 ②放射線部副部長 木村成秀

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：別紙③のとおり	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
・ 活動の主な内容： 1. 院内感染の調査、予防及び防止に関する事。事。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関する事。事。 3. 感染症発生時の措置に関する事。事。 4. 院内職員の教育及び啓蒙に関する事。事。 5. 消毒剤の使用に関する事。事。 6. HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関する事。事。 7. HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関する事。事。 8. HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関する事。事。 9. その他感染予防に関する事。事。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
・ 研修の主な内容： ・ 手洗い演習、防護具の着用、廃棄物処理、針刺し事故発生時の対応、安全器材について ・ 前年度感染対策室活動報告 ・ 四国における海外渡航時の感染対策について ・ 感染予防の基礎知識 ・ 病院での感染防止対策 ・ 静脈注射における感染防止対策 ・ 感染対策の重要性、感染対策のための組織 ・ 標準予防策、経路別予防策 ・ 感染対策の基本、職業感染、サーベイランス ・ 感染対策の応用 病院で問題となる微生物 血管内カテーテル関連血液感染防止 尿道留置カテーテル関連尿路感染防止 ・ 看護マネジメント学、感染管理	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染対策室会議、感染制御委員会で各病棟毎にMRSA等耐性菌の検出状況を報告し、どのような対策が講じられているかを調査している。この結果を院内の各委員に報告、フィードバックしている。 感染症発生報告の内容によってICNが現場へ出向き対応、指導を行う。必要に応じてICTが招集され対策を検討、ICN・ICD・ICTが協力して対応にあたる。適宜、病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告を行う。	

## 感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。

そのための基本的な考え方を以下に定める。

### 1. 感染対策に関する基本的な考え方

病院感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が把握し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

### 2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手洗いの徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

### 3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、病院感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

病院感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

### 4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

### 5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染制御システムにより、随時情報提供を行う。

### 6. 病院感染発生時の対応に関する基本方針

病院感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

### 7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年12回
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の採用と購入 2. 医薬品の管理 3. 投薬指示と調剤 4. 患者に対する服薬指導 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6. 他施設との連携の各業務について適正に実施している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科・部に配布している。 2. 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3. 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4. 院内での副作用発生事例については情報を収集し、厚生労働省および当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5. 医薬品安全管理委員会(薬事委員会)を設置、年4回開催している。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年100回
・ 研修の主な内容： 業者の協力を得て、新しい医療機器の使用が予定される部署、職員等を対象に研修を実施している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 ) ・ 保守点検の主な内容： 機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ニュース「ME機器管理センターからのお知らせ」を定期的に発行し、各病棟、各部署に配布している。 必要に応じてリスクマネージャー会議で周知徹底を行っている。また、人工心肺装置及び補助循環装置等、対象部署が限局される事項については、その都度通知文を回覧し周知徹底している。 K-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
公益財団法人日本医療機能評価機構	
2014年2月19日～2014年2月20日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・ ホームページにより、本院の概要や高度な医療等の情報を広く発信している。	
・ 医療セミナー「イキイキサぬき健康塾」の開催等の取組みを通じ、本院が提供している最新医療の情報を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・ 救命救急センターと各診療科が連携し、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷等、緊急性の高い重症救急疾患に対する高度な専門的医療を総合的に実施している。	
・ 手術、放射線、化学療法及び緩和医療の各専門医等からなるがん患者の症状、状態に応じた最適な治療方針を作成している。	